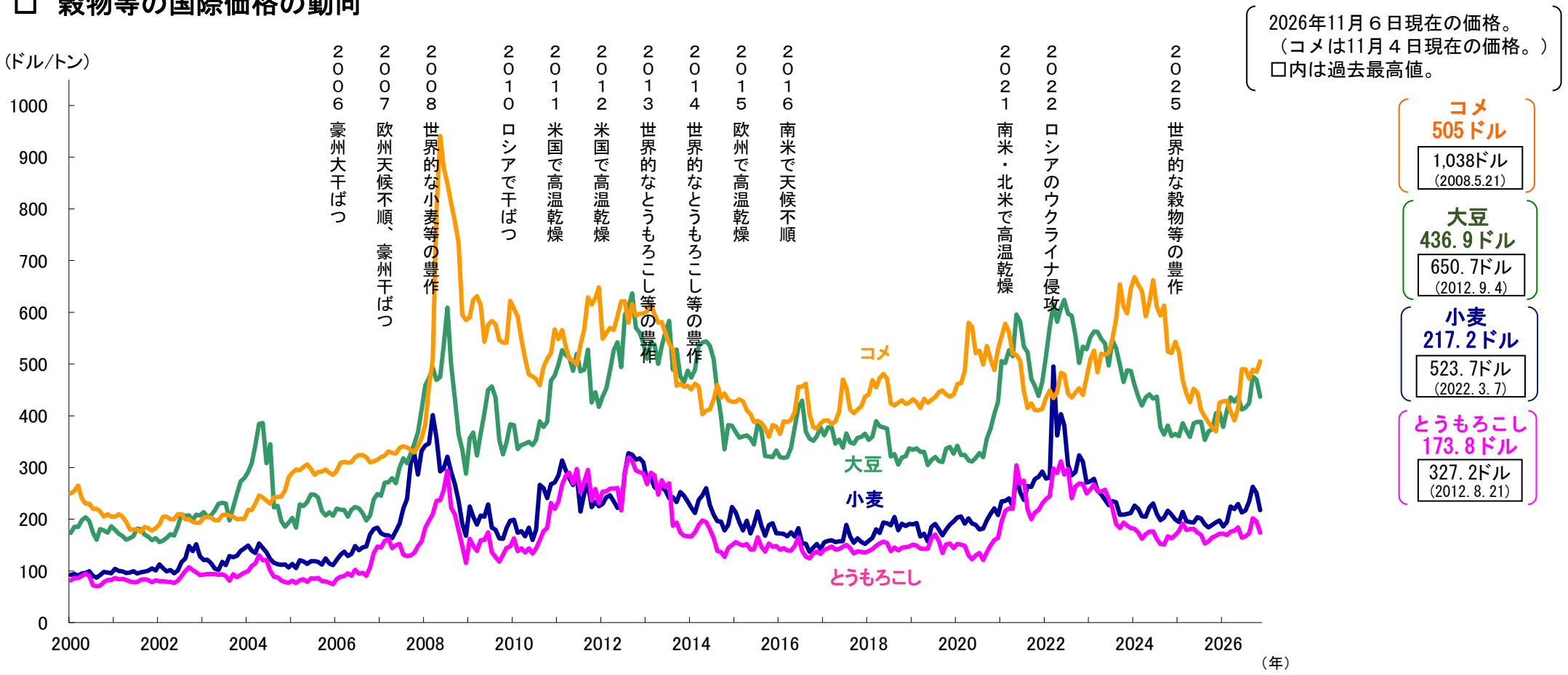
穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○　穀物等価格は、とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥、2022年のロシアのウクライナ侵攻等により上昇も、侵攻前の水準まで下落。
　とうもろこし、大豆は、ウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。とうもろこしは、2026年７月以降、ウクライナ情勢悪化等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。大豆は、中東情勢の緊迫化、中国の買付け等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。
　小麦は、2022年、ウクライナ侵攻により史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。その後、2026/27年度米国産小麦の減産、ウクライナ情勢悪化等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。
　コメは、2022年９月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落。2026年５月以降、中東情勢の影響に加え、エルニーニョ現象の影響による生産見通しの不確実性を受け大きく上昇。

□　穀物等の国際価格の動向



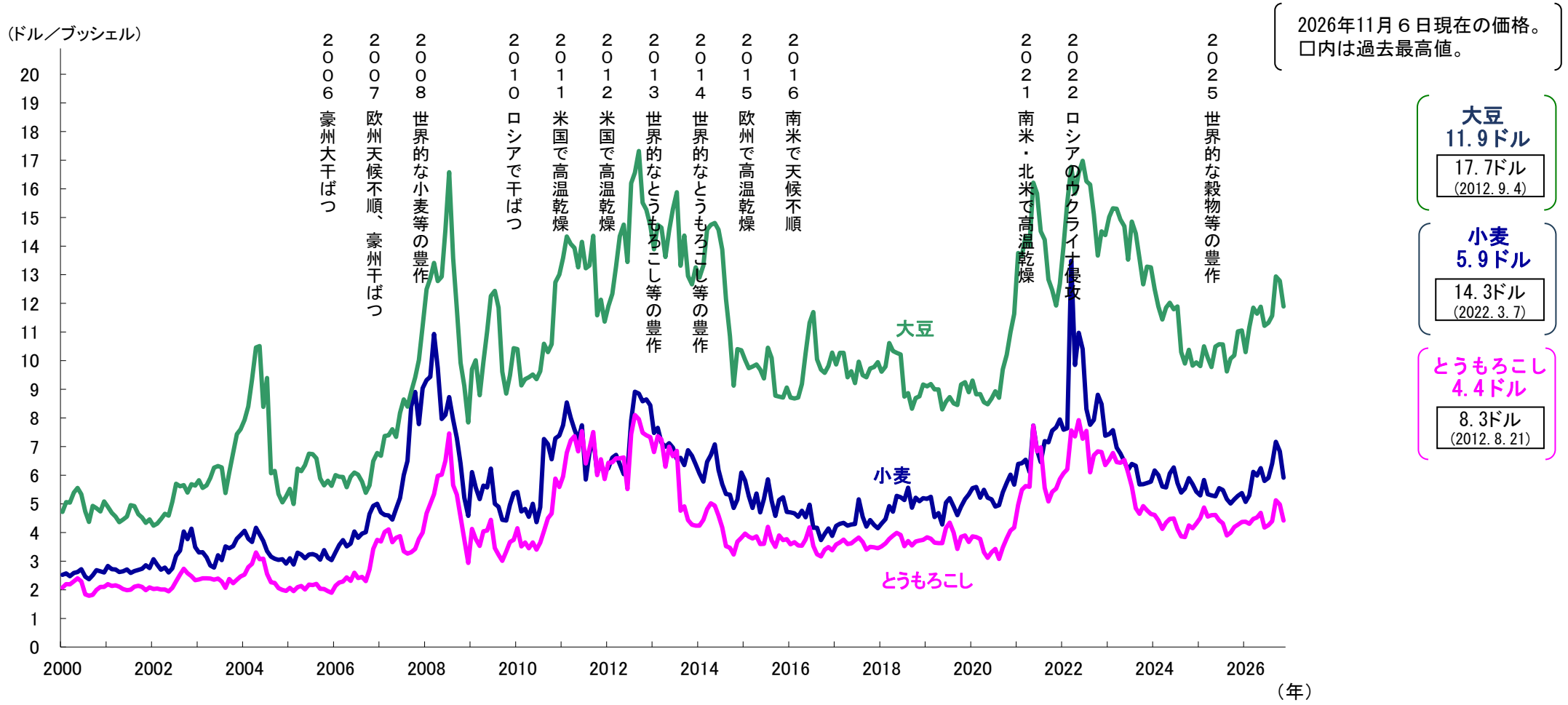
注１：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第１金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第１水曜日のタイうるち精米100%２等のＦＯＢ価格である。

注２：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

穀物等の国際価格の動向（ドル/ブッシェル）

○　穀物等価格は、とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥、2022年のロシアのウクライナ侵攻等により上昇も、侵攻前の水準まで下落。
　とうもろこし、大豆は、ウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。とうもろこしは、2026年７月以降、ウクライナ情勢悪化等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。大豆は、中東情勢の緊迫化、中国の買付け等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。
　小麦は、2022年、ウクライナ侵攻により史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。その後、2026/27年度米国産小麦の減産、ウクライナ情勢悪化等を受け上昇傾向も直近では下落傾向。

□　穀物等の国際価格の動向



2026年11月６日現在の価格。
□内は過去最高値。

大豆
11.9ドル
17.7ドル
(2012.9.4)

小麦
5.9ドル
14.3ドル
(2022.3.7)

とうもろこし
4.4ドル
8.3ドル
(2012.8.21)

注１：シカゴ商品取引所の各月第１金曜日の期近終値の価格である。
注２：過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。